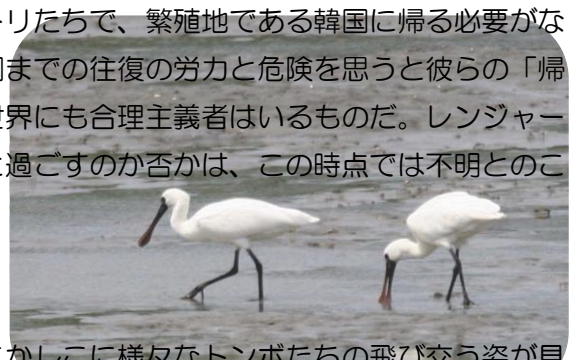


# 公園の風景

## クロツラヘラサギ み・え・ま・す

主に韓国で繁殖し、東南アジアや近年では日本でも越冬するクロツラヘラサギ。7月も末の現在はすでに繁殖地に帰っているはずだが、昨秋、山口湾に飛来した18羽のうち2羽がいまだ帰国せず、のんびりと日本のサマーホリデーを楽しんでいる様子。公園の観察棟から山口湾を望むと、時折エサを漁る彼らの姿を見ることが出来る。彼らは若いトリたちで、繁殖地である韓国に帰る必要がなく、このまま越冬ならぬ越夏するつもりようだ。韓国までの往復の労力と危険を思うと彼らの「帰国しない」という選択は正しいのかも知れない。どの世界にも合理主義者はいるものだ。レンジャーの説明によると、彼らがホントにこの夏を日本でずっと過ごすのか否かは、この時点では不明とのこと。



## トンボ ・ いっぱい！

今夏、公園はトンボの大量発生で園路を歩くと、そこかしこに様々なトンボたちの飛び交う姿が見られる。トンボは卵から羽化するとヤゴになり、やがて脱皮して成虫になることは周知。そのヤゴの脱いだ殻が重なり合ってボール状になったものをウカボールという。このウカボールが淡水池の岸辺の草木やアシの枯れ枝の先端までにもびっしりとくっついているのが肉眼で確認できる。このおびただしいウカボールを見ただけで今年のトンボの大量発生がうなずける。

公園開設当初（2001年）公園はトンボ天国だったが、年月の経過と共にトンボ池や淡水池の水質の変化でトンボの産卵が少なくなっていた。昨夏、淡水池に酸化マグネシウムを散布し水の浄化を図った結果、今年は公園開園当時を思い起こさせるようなトンボラッシュの夏を迎えている。

## アオサギのご馳走

天然のニホンウナギが絶滅危惧IB類に指定され、夏のスタミナ源として日本人の食卓を賑わせていた蒲焼も自粛を余儀なくされそうな昨今ですが、公園の干潟ではアオサギが体長50cmはあろうかと思える、丸々としたニホンウナギを観察ホールのギャラリーの前で食べてみせました。最初はその大きさにちょっと腰が引けた感で嘴でつついていましたが、ウナギが少し弱りかけたと見るや俄然、頭から丸呑みを始めました。大きなウナギだったので全部飲み込むまでには5分くらい掛かったようですが完食。ギャラリーのなかからは、「うらやましい！」の声しきり。ギャラリーの頭の中には、きつとふっくらと焼きあがったウナギの蒲焼の映像がちらついていたのでしょ

